

JR上尾駅東口の駅前商業地域を抜け、旧中山道(国道17号線)を街道沿いに北東に進むと、飲食店や共同住宅等が建ち並び中に一際目を引くモダンな建物が見える。埼玉発祥の有名な日本酒銘柄の一つ「文楽」を製造する「北西酒造(株)」である。「昔ながらの酒造の価値観を変えていきたい」と意気込んだ同社社長の意向により、平成に入ってからこのような外観に建て替えたが、敷地の中に入ると、その歴史を感じる立派な井戸が残っており、モダンながらも、どこか懐かしさも感じる。同社は明治27年に埼玉県北足立郡平塚村(現上尾市平塚)にて清酒製造業を開始し、94年に創業100周年を迎えた。05年には海外への輸出も開始し、数々の国際的な



④酒造とは分らないモダンな北西酒造の外観 ⑤酒造に隣接した店舗

～文化的歴史的所産を巡る～
残したい情景
 第19回 埼玉県上尾市
 一般財団法人 日本不動産研究所

近年、酒造の経営環境は厳しく、日本酒の国内消費数量は、酒類の多様化や若者のアルコール離れも相まって、1973年頃をピークに減少傾向にあり、日本酒を造っている蔵元の数も減少している。上尾市にも酒造が数件存在していたが、現在市内の酒蔵は北西酒造のみである。埼玉県は有名な観光資源が豊富ではなく、観光地として注目を集める機会が少ないが、実は清酒出荷量が全国第5位であり、常に上位に位置している。最も多いのが、50代と云われ、このままでは市場は先細る一方である。日本酒文化を後世に残すには、若い世代に日本酒の良さを知ってもらうことが必要不可欠である。「北西酒造(株)」の北西隆一郎代表取締役社長に話を聞く。酒造経営者のなかでも、若い世代に日本酒の良さを知っ

清酒出荷全国5位の酒どころ
老若男女の集う蔵まつり

賞を受賞するなど、世界中で評価されている酒造である。

する酒どころでもある。埼玉県には荒川と利根川という2つの大河が流れており、県内の酒蔵は荒川水系と利根川水系の伏流水を用いて酒を仕込んでいる。

日本酒文化を若年に

県内には約35の酒蔵があり、05年には「彩の国酒造り学校」が開校した。埼玉県内の若手の酒造技術者を集め、実地研修や室内研修などの数多くのプログラムを行うなど、民間と行政が一体で県内の酒蔵を盛り上げている。現在、日本酒市場の客層で



歴史を感じる仕込み水の井戸が残る

少なくなっているが、「蔵まつり」は近隣住民に加え、コアな日本酒ファンが海外からも集まり、様々な年代・地域の人々が集う貴重な機会となっている。

日本酒の味わいはその地域の風土や気候に依存し、地域の特性をも表す代物であることから、地酒というのは一種の文化のよきにも思える。このような日本酒がきっかけとなって生まれる、年代・国籍を超えた人々のコミュニティは後世に残したい情景である。(関東支社/不動産鑑定士・齊木正人)

9月30日号14面の第17回「栃木県宇都宮市」の見出しは、個性ある商店街に再生」の誤りでした。ユニオン通り商店街はアーケード型商店街ではありませんでした。お詫言いで訂正します。